

令和2年度 臨時清瀬市立図書館協議会議事録

日 時：令和2年7月31日（木） 午前10時30分～正午

場 所：清瀬市立中央図書館 会議室

出席者：清瀬市立図書館協議会委員

小苺米清弘会長、佐藤門太副会長、春日サツ委員
事務局

伊藤高博図書館長、渡辺明夫図書館副参事、山口由希庶務・
資料担当主査、横山明子奉仕・地域図書館担当主査、湯本恵
庶務・資料担当主査

オブザーバー

有限責任監査法人 福井氏

配布資料：資料 図書館の再編方針について説明資料

議事

- 1 開会
- 2 事務局職員の紹介
- 3 議題
 - (1) 図書館再編の基本方針について
 - (2) その他
- 4 閉会

1 開会

(会長) 欠席者もいるようだが、これよりこのメンバーで臨時協議会を開催する。

2 事務局職員の紹介

3 議題

(1) 図書館再編の基本方針について

(会長) 前回から引き続き図書館再編の基本方針について、有限責任監査法人トーマツの福井氏に説明いただきたい。

(福井) 前回不備があった資料について、修正したものをお持ちしたので、再度説明させていただく。

現在、清瀬市では図書館だけではなく全ての公共施設をどのように運用・所有していけば良いかを議論中であり、その中の各論として、図書館についての在り

方を議論させていただきたい。「1 図書館再編の背景」「2 清瀬市の図書館の現状と課題」「3 清瀬市の図書館の将来像と果たすべき機能」という三つの章立てで説明をしていきたい。

資料「図書館再編の基本方針 1 図書館再編の背景」

福井氏より説明

(会長) 全体像の理念的な方針をご説明いただき、非常に興味深い話であった。課題である「市民サービスの向上」と「延べ床面積の削減」は二律背反的關係であるが、今後この両立しそうでない課題をどう解決していくのかが今回の改革のポイントとなる。

「公共施設再編の背景」において、「将来の更新等経費と充当可能な財源見込みの比較」図について、下に記載のある新庁舎建設の特定財源を経費に含んでいない点に注意して、参照した方が良いと一言申し上げておきたい。

(委員) 特定財源とは何か。市役所の新庁舎建て替えや児童館の建て替え等に向けて積み立てているのではないか。

(会長) 特定財源とは使途が決められた財源のことで、国庫支出金や各種基金がこれに相当する。

中央図書館を全市レベルの施設、その他の図書館が地域レベルの施設に該当し、また学校を拠点化していくという考え方が書かれているが、個人的には非常に素晴らしい考え方であると思う。現在進行形で、すでに他市では複合施設を建設しており、昨年研修会で複合施設の武蔵野プレイスを視察した。また小平市のなかまちテラス内の仲町図書館も同様であった。

(委員) それが延べ床面積を削減しながら市民サービスを多くしているということなのか。

(福井) 複合施設にすることにより、例えば廊下を共有して利用することで、サービスを維持しながら少しずつ節約を実現している。

(委員) 学校にも図書室があり、拠点となる施設にも図書館ができるイメージとなるのか。

(福井) その点についてはこの後詳細を説明する。

(会長) 学校を最適配置しとの表現について、「最適配置」の具体的な基準は策定するつもりか。

(福井) 本年6月、教育委員会より「学校の適正規模・配置についての考え方」が広報されており、それに沿った形で実現する予定。詳細は清瀬市ホームページを参照していただきたい。

(会長) 最適配置の根拠たる指針は、教育委員会が準備されているということで理解した。

(福井) 記載は教育委員会の資料に倣い、「最適配置」から「適正規模・適正配置」に改める。

(会長) 学校とコミュニティ施設を一体化する理念について、一般市民としても、現状は小学校及び中学校が閉鎖された施設に感じるため、開放していただくことについては賛成する。もっとも、不審者の問題をどうするかということもある。

(福井) 安全性の問題や運営・運用方法についての課題も指摘いただいております、ハードルは高いが一つ一つ課題に取り組みながら実現していきたい。埼玉県 of 志木市の志木小学校や、台東区の昌平小学校、川崎市はるひ野小中学校などの公立の学校は、実際に小学校を解放して地域コミュニティとして利用されている。

(委員) 他の自治体が市の一部の学校ですでに実現されていることは理解したが、全市を挙げて実施している自治体は存在するのか。

(福井) まだ実現している自治体は存在しておらず、清瀬市が先進を走っている状況であり、壮大な話である。

(副会長) 全市で実施するとなると時間も費用もかかる。一斉に拠点化は難しいため、まずはモデルケースによってパイロット的に小学校を拠点化させ、段階的に全市に広めていくような実現方法になると思われる。

(委員) 理想だけでも掲げていければ良いと思う。将来、費用をかけずに良くなるといえば市民も納得するはず。まずは志を掲げることが大事なのではないか。うまくアピールすることも大事である。

(会長) この大改革について、具体的に問題提起をしつつアピールしていく方が

良い。

ところで、図書館のサービスポイントとは何か？

(福井) 次章で詳細を説明しようと考えていたが、この場で説明する。

サービスポイントとは、現在の図書館のように本を置いていなくても利用者が図書館のサービスを受けられる拠点のことを意味する。

(委員) 図書館の成果は、貸出数や読み聞かせ人数だけで評価すべきではないと考える。また、本を選書しない図書館が図書館と言えるのか。利用者を上手に本へ誘うことが図書館のプライドであり、図書館の真なる姿である。それが存在しないサービスポイントの考え方には反対する。

(福井) 図書館が全く無くなるものではなく、学校図書館を充実させ一般にも開放する方向も今後併せて検討する。

(会長) 中央図書館は司令塔としての役割を果たし、地域図書館をコントロールすることとなるわけで、有能な職員を中央図書館に配置し運用する方針とすべきである。

ところで「サービスポイント」とは、図書館用語なのか。

(館長) サービスポイントとは図書館界でよく使用される用語である。実際に西東京市では分室があったところを閉鎖し、サービスポイントとして予約資料の貸出・返却に特化して運営している。また国分寺市は国立駅の近くにある出張所で市民課の職員が予約資料の貸出・返却を行なうなど、すでにサービスポイントを設置して運用している自治体が存在している。

市内の図書館でも、特に新型コロナウイルス感染症の影響で休館していた間、図書の閲覧はできないので、Web で検索してお読みにになりたい本を予約され、図書館の窓口でお借りになるというサービスポイントと同様の取組が、一定の効果を得ることができた。

また、議論に上がっているとおり、現在のままの延べ床面積を維持した上で運用することは難しい。現在、中央図書館以外は全て複合施設となっている状況で例えば将来下宿地域市民センターが廃館となった場合、下宿図書館の規模をそのまま移設することは延べ床面積減少の方針からすると、現実的ではない。

市民サービスの質を少しでも確保するため、下宿図書館の近くにサービスポイントを設けることは、一定の緩和的な措置になると考えられる。

資料「図書館再編の基本方針 2 清瀬市の図書館の現状と課題及」及び、「図

書館再編の基本方針 3 清瀬市の図書館の将来像と果たすべき機能」

福井氏より説明

(副会長)「図書館の蔵書数及び貸出の傾向」で、子供の貸出冊数が低いとのグラフがあるが、子供は基本的に学校の図書室を利用している。また、地域図書館からまとめて図書を貸していただき学級文庫として利用していると認識しているが、それでも少ないということか。

(福井) 公共図書館の貸出数のみ集計しており、そういった利用については考慮していないグラフとなっている。

(会長) 前回も指摘したが、市民の読書離れへの対応に対する「市民の読書への寄与」の表現について、寄与できる市民と寄与できない市民がいると受け取れてしまう。ここでの問題は市民側の問題ではなく、図書館の市民への関わり方を求め提起されているものと考えるので、その旨記載を修正していただきたい。

(福井) 表現を修正させていただく。

(会長) 今回、他の図書館の事例が記載されているおり、清瀬市の図書館の将来象を考えるためにも、非常に参考になり貴重な資料であった。

(福井) 今回の案として、中央図書館は色々な機能を持ち合わせた司令塔としての役割があり、地域図書館は地域の人と図書を結びつける場としての役割がある。図書館という箱でなくてもできることはその他の施設で行い、器はなくなるが機能としては残るという方針で整理している。例えば、高齢者の居場所としての図書館という側面もあるが、コミュニティセンターのフリースペースがその役割を担うことによって、二律背反した課題を解消できるのではないかと考えている。

(会長) 施設の機能分担案は非常に分かりやすいものとする。

(福井) これで決まりではないので、今後も忌憚のないご意見をいただきつつ、応援していただきたい。

(会長) 事例紹介で、「特徴」に記載してある「教員と学校司書合同研修会の開催」について、現在清瀬市では実施されているのか。

(副会長) 現状は実施されていない。だが、各学校に学校図書館運営支援員が派遣されており、また P T A やボランティアの方に蔵書整理等を献身的に実施いただいている。古い蔵書ばかりの、いわゆる昔ながらの学校図書館ではなく、子供たちも学校図書室を楽しみに利用している。また、新型コロナウイルス感染症のため今はできていないが、P T A 等の方達による読み聞かせなども実施している。

公共図書館からも小学校の 2 年生を対象に、図書館の紹介やブックトークに来ていただいております。清瀬市は清瀬市なりに読書活動を活発にしていこうという取り組みがなされている。地域コミュニティと一体化した時に、そういった活動がどういった形で継続、或いは発展していくかを注視したい。そういった地道な取り組みがあり、地域の皆さんで努力していただいているように思う。

(会長) ところで「学校図書館支援センター」の記載があるが、現状で清瀬市にそのような施設はあるのか。

(館長) 現在は存在していないが、今後こういった機能が期待されている。

(会長) 中央図書館が、今後その役割を果たしていくべきなのかもしれない。最後に副会長から一言お願いします。

(副会長) 大改革とも言うべき理想の姿に向かって実現できればと思う。もちろん財政面も含め多数の課題があるが、それでも理想を追い求めて各施設の役割を実現し、一つずつ課題を解決して是非実現していただきたい。

(会長) これで閉会する。